

淀川の堤防

一危険ライン「根拠なし」

淀川の洪水防止のため、現在の堤防頂上の下約2mが定めてある危険水位ライン「計画高水位」について国土交通省は、約70年前に明確な科学的根拠もなく決めた水位であることを明らかにした。国交省は従来、水が急に低下すると説明し、淀川の水位を計画高水位より2m下回らせるため、大戸川ダム（大津市、建設費1080億円）の建設が必要と訴えてきた。専門家はラインを多少上回っても堤防の安全性は変わらないと指摘しており、ダムの必要性に疑問が生じている。

【野田武】

国交省は、大戸川ダム計画の説明資料に「（川の水が）計画高水位を超えれば堤防の安全性は急激に低下する」と明記。計画高水位未満の場合の安全性がどう変化するか、

水位頂上の下2メートル

認め
る
國交省

「大戸川ダム」に疑問

はいろいろある」と指摘している。

を100%とするところ、数量的な計算はない。旧建設省作成の資料「淀川百年史」による50%程度に下がるとのグラフも示している。ダムを建設しない場合、200年に1度の豪雨の際には、水が計画高水位を17m上回る

が、建設で2m下いで計画高水位を超過するとの試算も公表した。しかし、国交省によると、実は計画高水位の前後で、堤防の安全性がどう変化するか、

水位堤防が決壊したたたことではない。国交省淀川河川事務所の小俣篤所長は「線引き方が非科学的だと言わいたらその通りだが、土木とはそういう

と話した。

大熊孝・新潟大名誉教授（河川工学）は「計画高水位は豪雨時の流

量計算や過去の洪水の

はいろいろある」と指

摘している。

治29）年に旧内務省が決めた。洪水記録に基づき、これ以下の高さ約2m。淀川本川では水を流せば水害が防げるので水を計画高水位を超えた記録が5回あれば、うち約50%超が2回、約30%超が1回あつたが、堤防が決壊したことではない。

設定した。その後、洪

め、1939年に約50%引き上げ、現行の値に変更した。

所の引け方が非科学的だと言わいたらその通りだが、土木とはそういう

と話した。

らいけない線ではない

し、超えてすぐに安全

性が急激に下がったり

堤防が壊れたりもしな

い。計画高水位以上でも安全性を高める方法

はいろいろある」と指

摘している。

らいけない線ではない

</